

2015年度 日本木材学会中部支部大会（高山）実施報告

岐阜大学応用生物科学部 光永 徹, 寺本 好邦

2015年度日本木材学会中部支部大会は、10月30日・31日の両日、岐阜県高山市にて開催されました。やや肌寒い気候でしたが、30日に心配された雨は小雨で済み、31日は晴天に恵まれました。

1日目の研究発表会は、高山駅そばの飛騨地域地場産業振興センターで行いました。12時からの評議員会では、本年度の中部支部地域功労賞が信州大学 武田孝志氏と静岡県工業技術研究所 櫻川智史氏に授与されることなどが決議されました。13時から佐々木康寿支部長のご挨拶に続き、同賞の授与式を行いました。

研究発表会は、例年と異なり、全てをポスター形式で行いました。「分野の垣根を越えて様々な研究分野の発表を参加者全員で聴講する」という趣旨で、オブレーションタイム 1時間のポスター発表に先立ち、各発表者がスライド1枚を使って2分間ショートプレゼンを実施しました。幸い、この形式には「ポスター発表を活性化できる」との好意的なコメントが寄せられました。発表件数は42件、参加者は106名（うち学生34名、飛騨三市から一般14名）でした。

18時半からの懇親会は、ひだホテルプラザに場所を移して61名が集いました。岐阜県生活技術研究所 横山久範所長の歓迎挨拶、佐々木支部長のご挨拶に続き、日本木材学会 鮫島正浩会長からのご挨拶と乾杯のご発声で幕を開けました。和やかなムードで飛騨の素材をふんだんに取り入れたメニューを楽しむ中、会の半ばの優秀発表賞の表彰式（受賞者は下部に記載）では、佐々木支部長より表彰状と副賞が授与されました。あつという間の2時間の後、石川県農林水産総合研究センター 八神得彦氏より次回金沢大会のお誘いがあり、日本木材学会前会長 杉山淳司先生からの中締めのご挨拶でお開きとなりました。

2日目は、ひだホテルプラザにて「地域資源を活用する森林・林産業の将来に向けて」と題した公開講演会を行いました。非常に豪華な4名の招待講演者：オークヴィレッジ株式会社 社長 稲本 正 氏（題目「世界に誇れる宝！日本の温帯林」）、岐阜県 林政部 県産材流通課長 長沼 隆 氏（題目「森林資源の有効利用と持続可能な森林づくり」）、国立研究開発法人産業技術総合研究所 機能化学研究部門 グループ長 遠藤 貴士 氏（題目「木質資源の高付加価値化技術～リグノセルロースナノファイバー製造・複合材料化技術～」）、および京都大学 生存圏研究所 教授 杉山 淳司 氏（日本木材学会 前会長）（題目：「歴史と文化のかおる木のサイエンス」）から話題をご提供頂きました。25分間という短時間でお話し頂くのは勿体無い！との声が多く聞かれました。約10分間の休憩の後、鮫島会長にファシリテーターをお願いして、招待講演者に壇上にお上がり頂きパネルディスカッションに入りました。議論は会場の参加者からお預かりした質問票を基に進行し、林産物の利用からセルロースナノファイバーに至るまで、社会的情勢やサイエンティフィックなポイントを踏まえた濃密な議論が展開されました。参加者は101名（うち飛騨三市から27名）でした。

この支部大会の開催に当たり、岐阜県生活技術研究所の三井勝也さん・伊藤国億さんには、会場予約、飛騨・高山観光コンベンション協会との折衝を全てお引き受け頂くとともに、中日新聞等での広報もお願いしました。お二人のおかげで大変スムーズに準備することができました。心より感謝申し上げます。当日の会場設営・運営は、岐阜大学応用生物科学部と教育学部の学生が手伝いました。優秀発表賞の選考作業一式は、名古屋大学の事務局にご担当頂きました。ご尽力くださった全ての皆様に心からお礼申し上げます。最後に、大会を大いに盛り上げてくださった、県内外からの多数の参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

【優秀発表賞】

- P41 「結晶化挙動調査による混練型 WPC 用相容化剤のセルロースとの相互作用評価法の確立」
（岐阜大院応生）○丹羽沙織，（トクラス(株)）岡本真樹，牧瀬理恵，伊藤弘和，（岐阜大院応生）寺本好邦
- P24 「針葉樹葉精油の嗅覚刺激が自律神経活動に及ぼす影響」
（岐阜大院応生）○林友香，小川愛，光永徹
- P30 「水へのナノ分散性とビニル重合性を有する無水マレイン酸修飾セルロースナノファイバーをベースとした刺激応答・高伸縮複合ハイドロゲルの創製と物性制御」
（岐阜大院応生）○光部亮佑，（岐阜大院応生）葎谷耕三，寺本好邦
- P09 「木材感性評価時の触診動作解析」
（信州大・繊維）○設楽稔那子，吉田宏昭，（信大院・総工）上條正義，（岐阜県生活研）藤巻吾朗，山口穂高